

I. 「学生による授業評価 2009」の概要

I-1. 目的

本学では、学生の授業に関する理解の状況や満足感等を把握することによって、教育内容や教授方法及び学習支援システム等の改善に資することを目的とし、平成 17 年度より自己点検・評価の一環として学生による授業評価を導入している。第 1 回の平成 17 年度は試行的な意味を持たせた内容であったが、第 2 回の平成 18 年度からは本格的な授業評価調査として実施している。第 5 回目となる今年度は、調査内容を一部改善するとともに、評価の対象をこれまでと同じ開講 2 年目の科目（2008 年度新規開設科目）に加え、開講 1 年目の科目（2009 年度新規開設科目）も評価の対象とした。本報告書は、このうち開講 2 年目の科目（2008 年度新規開設科目）の調査結果報告書である。

以下、その量的分析結果及び自由記述の内容を報告する。

学生による授業評価は、個々の科目に対する学習者の視点からの具体的で詳細なフィードバックを得ることを企図して実施される調査である。その主な目的は、次の通りである。

- (1) **個別授業科目の改善支援**……個々の科目を受講者がどのように学習し、どう評価しているかを項目ごとに把握することにより、次の科目改訂等に際して改善すべき点の発見を容易にするような資料を提供する。
- (2) **カリキュラム全体の改善支援**……専攻または領域、プログラム（群）における、より効果的なカリキュラム構成や水準のバランス等を検討する上での有効な資料を提供する。
- (3) **認証評価に関わる資料提供**……大学に対して社会的に強く求められている定期的な認証評価に際しての重要な資料を提供する。

しかし、一般の大学とは異なり、放送大学においては授業評価の結果をそうした目的にストレートに用いることが必ずしも容易ではない。そこには、次のようないくつかの放送大学に固有の条件と特殊事情があり、結果の利用には一定の留保が求められることになるからである。

第 1 に、放送大学では、収録された放送授業を 4 年間継続して放送する原則になっていることである。そのため、たとえ授業評価で改善点が明確に示唆されたとしても、即座にそれを改善する（つまり、評価の次年度に改訂版を収録する）ことが非常に難しいのである。

第2に、放送大学の主任講師は客員であることが多く、その場合、必ずしも科目の改訂を同一教員がするとは限らないことである。主任講師が交代すると、科目の内容や構成が変わってしまう場合があるため、前科目に対する評価は往々にして参考程度の意味しか持たないことになるのである。

第3に、放送大学は公開大学であり学部には入学試験がないこともあって、他の一般大学に比して学生集団は多様で流動的であり、そこに一定のまとまった特性を求めることは難しい。授業評価で得られた結果も他の大学よりはるかに分散が大きいことが容易に予想される。したがって、たとえ結果を得たとしても、どの層の学生をターゲットとして授業改善をしていったらよいのか、必ずしも明確ではないのである。事実、過去の数次にわたる授業調査で毎回見られることであるが、例えば、「放送授業と印刷教材はできるだけ同一の内容に」と「放送授業と印刷教材の内容が同じでは別の教材である意味がない」とは、常に同じくらい多く書かれる意見である。もちろん、そうした意見の平均や中間点を採用してもあまり意味がないことは言うまでもない。

そして、第4に、放送大学は教員の5年任期制を採っており、再任のためには5年ごとの内部審査の通過が必要とされることである。そのため、個々の教員の評価にストレートに結びつきがちな授業評価の実施に対しては、当初より慎重論も決して少なくなかった。したがって、上述した第3の特性を持つ授業評価に関しては、授業改善あるいはカリキュラム改善のためにのみ結果を用いる、という確たる合意が必要とされるのである。

I-2. 構成と内容

今回の学生による授業評価調査は、大きく分けて3つの部分からなっている。

第1は、当該科目への取組姿勢、放送授業、印刷教材、単位認定試験等について4段階で評価する評定尺度質問である。その内容は、①当該科目にどれだけ熱心に取り組んだかを示す回答者自身の自己評価と、②授業の難易度・分量、放送授業、印刷教材、通信指導・単位認定試験および全体的に見た授業評価の2つに分かれる。

第2は、当該科目のよかった点、改善すべきだと感じた点、本学の教育システム全般への意見に関する質問であり、自由に記述してもらった形態を採った。

そして、第3は回答者の属性に関する質問である。

実際に使用した調査票については152、153頁を参照されたい。

I-3. 方法と期間

評価の対象としたのは、平成21年度第1学期に本学で開講していた学部223科目、大学院52科目、計275科目の放送授業のうち、開講2年目の科目、学部71科目、大学院7科目、計78科目である(表1-1参照)。開講2年目の科目を対象としたのは、3年目

以降の科目ではすでに次期に向けての改訂作業が進められていて授業改善という目的に十分役立てることができず、また開講したばかりの1年目の科目では結果が出て改訂までに間が空きすぎる等、本学の科目作成の特殊事情を勘案してのことである。またこのような選定システムにすることで、開設後4年間継続して放送することとされている全科目が、開講期間中に必ず1回授業評価の対象とされることになる。

表 1-1 専攻・プログラム別の評価対象科目数および有効回答数

【学部】

専攻	科目数		有効回答									
	平成21年度(2008)		平成21年度(2008)		平成20年度		平成19年度		平成18年度		平成17年度	
	全開設	評価対象	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
基礎科目	23	9	680	12%	1,377	23%	-	-	-	-	-	-
生活と福祉	31	9	662	12%	751	13%	649	13%	366	12%	790	9%
発達と教育	33	11	811	15%	795	14%	1,046	20%	466	15%	809	9%
社会と経済	31	11	868	16%	801	14%	448	9%	895	29%	749	8%
産業と技術	23	9	567	10%	449	8%	677	13%	-	-	1,833	20%
人間の探究	51	14	1,367	25%	1,060	18%	1,786	35%	1,025	33%	2,582	29%
自然の理解	25	8	588	11%	627	11%	526	10%	326	11%	2,210	25%
夏季集中科目	6	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全体	223	71	5,543	100%	5,860	100%	5,132	100%	3,078	100%	8,973	100%

※構成比は、四捨五入しているため、各項目を合計しても100%にならない場合がある。

【大学院】

プログラム(群)	科目数		有効回答							
	平成21年度(2008)		平成21年度(2008)		平成20年度		平成19年度		平成18年度	
	全開設	評価対象	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
総合文化(文化情報科学群)	21	0	-	-	238	25%	442	23%	512	32%
総合文化(環境システム科学群)		2	79	22%	64	7%	344	18%	439	28%
政策経営	13	3	166	47%	125	13%	487	25%	265	17%
教育開発	11	1	39	11%	282	30%	476	25%	201	13%
臨床心理	7	1	70	20%	240	25%	172	9%	172	11%
全体	52	7	354	100%	949	100%	1,921	100%	1,589	100%

※構成比は、四捨五入しているため、各項目を合計しても100%にならない場合がある。

調査票の配布は、これら78科目の全受講登録者を母集団とし、学部科目では各250名(登録者がそれ未満の科目は全数)、大学院科目では各200名(同)をそれぞれ無作為抽出して得られた学部17,671名、大学院938名、計18,609名(いずれも延べ人数)に、回答すべき科目を予め指定した上で、郵送により行なった。

また、回収も郵送により行ない、調査期間は第1学期単位認定試験終了後の10月下旬から11月中旬までの約3週間とした。有効回答数は学部5,543票、大学院354票、計5,897票であった。無記名調査ながら、有効回答率は学部31.4%、大学院37.7%、全体で31.7%と低めであった(表1-2参照)。回収率の低さの要因はさまざまに考えられるが、昨年度と同様に科目登録者数や調査日程の関係から単位認定試験未受験者に対しても調査票を配付していることが回収率の低さの大きな要因の一つと思われる。なお、昨年度の有効回答率(学部37.0%、大学院45.0%、全体37.9%)と比較すると、学部・大学院とも有効回答率が下がっているが、これは調査時期が昨年度と異なること(昨年度までは単位認定試験直後の9月に実施)や、今年度は2009年度新規開設科目も同時に調査したため、複数の科目を依頼した学生が多かったことなどが影響しているものと考えられる。

表1-2 調査対象者数および有効回答率

	21年度(2009年新規開設科目)			21年度(2008年新規開設科目)			20年度(2007年新規開設科目)		
	対象者数	有効回答者数	有効回答率	対象者数	有効回答者数	有効回答率	対象者数	有効回答者数	有効回答率
学部	10,882	3,836	35.3%	17,671	5,543	31.4%	15,853	5,860	37.0%
大学院	2,826	1,184	41.9%	938	354	37.7%	2,107	949	45.0%
計	13,708	5,020	36.6%	18,609	5,897	31.7%	17,960	6,809	37.9%

I-4. 時系列分析

報告書の一部に第2回目(平成18年度)以降の調査との比較を掲載した。ただし、今年度は調査票の一部を修正したため、基本的に修正のなかった評価項目のみを時系列分析の対象とした。また、第1回目(平成17年度)の調査は、今回とは質問内容が異なる項目が多くあったため、時系列比較には入れていない。

さらに本調査は原則として開講2年目(あるいは1年目)の科目を対象とするため、調査対象科目は年度ごとに異なっているという事情がある。本来ならば、時系列分析は同一の科目同士あるいは同一科目から構成される専攻(プログラム)を比較対象とすることで、その意義が発揮されるであろう。しかし、対象科目は異なるとはいえ、年度ごとに開設された放送授業の全体的な傾向及びその方向性を見る上では参考になると思われる。

I-5. 回答者の特性

(1) 回答者の属性分布

回答者の属性分布は、次頁の表1-3に示したとおりである。母集団（全受講登録者）の分布と比較すると、学部は、性別では男性、年齢階層では50歳以上、学生種では科目履修生の比率が母集団と比べやや高くなっている。一方、大学院は、性別では男性、年齢階層では20代、学生種では修士全科生と修士科目生の比率が高くなっている。それぞれの属性別分析をする場合には問題はないが、全体の結果等を見る場合には、このような属性の偏りも考慮する必要があるだろう。なお、ここで比率が高いからと言っても、それらの属性の回答率が高いことをただちに意味するものではないので注意していただきたい。たとえば、たまたま今回は男性の比率が多い科目が対象になったため、男性に偏った属性分布になっているということもありうるからである。

表 1 - 3 回答者の属性分布

【学部】

		21年度(2009年新規開設科目)			21年度(2008年新規開設科目)			20年度(2007年新規開設科目)		
		回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団と の差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団と の差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団と の差
性別	男性	47.6%	44.6%	3.0%	47.4%	44.6%	2.8%	44.9%	42.8%	2.1%
	女性	49.0%	55.4%	▲6.4%	49.3%	55.4%	▲6.1%	53.3%	57.2%	▲3.9%
年齢階層別	19歳以下	0.4%	1.5%	▲1.1%	0.4%	1.5%	▲1.1%	0.5%	1.0%	▲0.5%
	20～29歳	8.2%	20.6%	▲12.4%	10.2%	20.6%	▲10.4%	9.9%	18.3%	▲8.4%
	30～39歳	16.0%	21.2%	▲5.2%	16.7%	21.2%	▲4.5%	17.4%	23.9%	▲6.5%
	40～49歳	20.6%	22.3%	▲1.7%	18.9%	22.3%	▲3.4%	19.8%	22.0%	▲2.2%
	50～59歳	18.5%	16.3%	2.2%	18.8%	16.3%	2.5%	20.5%	18.0%	2.5%
	60～69歳	24.3%	13.4%	10.9%	23.3%	13.4%	9.9%	21.6%	16.8%	14.1%
	70歳以上	11.5%	4.9%	6.6%	11.0%	4.9%	6.1%	9.3%		
学生種別	全科履修生	66.7%	80.8%	▲14.1%	74.5%	80.8%	▲6.3%	74.8%	76.0%	▲1.2%
	選科履修生	19.5%	16.7%	2.8%	16.3%	16.7%	▲0.4%	16.9%	18.0%	▲1.1%
	科目履修生	12.1%	2.5%	9.6%	7.4%	2.5%	4.9%	5.8%	5.9%	▲0.1%
人数(N)		3,836	-	-	5,543	-	-	5,860	-	-

※回答者については、無回答があるため、合計は100%にはならない。

【大学院】

		21年度(2009年新規開設科目)			21年度(2008年新規開設科目)			20年度(2007年新規開設科目)		
		回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団と の差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団と の差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団と の差
性別	男性	60.8%	59.5%	1.3%	63.8%	59.5%	4.3%	58.3%	54.2%	4.1%
	女性	35.4%	40.5%	▲5.1%	33.9%	40.5%	▲6.6%	39.6%	45.8%	▲6.2%
年齢階層別	20～29歳	3.0%	4.9%	▲1.9%	12.4%	4.9%	7.5%	3.1%	5.5%	▲2.4%
	30～39歳	13.8%	18.2%	▲4.4%	15.0%	18.2%	▲3.2%	17.9%	20.6%	▲2.7%
	40～49歳	25.2%	28.9%	▲3.7%	25.7%	28.9%	▲3.2%	24.6%	29.1%	▲4.5%
	50～59歳	26.9%	27.2%	▲0.3%	24.0%	27.2%	▲3.2%	25.5%	27.3%	▲1.8%
	60～69歳	22.1%	14.6%	7.5%	14.1%	14.6%	▲0.5%	17.5%	17.5%	10.2%
	70歳以上	8.4%	6.2%	2.2%	7.3%	6.2%	1.1%	10.2%		
学生種別	修士全科生	30.7%	21.1%	9.6%	24.0%	21.1%	2.9%	24.3%	17.4%	6.9%
	修士選科生	59.0%	71.4%	▲12.4%	49.7%	71.4%	▲21.7%	59.9%	70.0%	▲10.1%
	修士科目生	8.9%	7.5%	1.4%	24.3%	7.5%	16.8%	14.0%	12.6%	1.4%
人数(N)		1,184	-	-	354	-	-	949	-	-

※回答者については、無回答があるため、合計は100%にはならない。

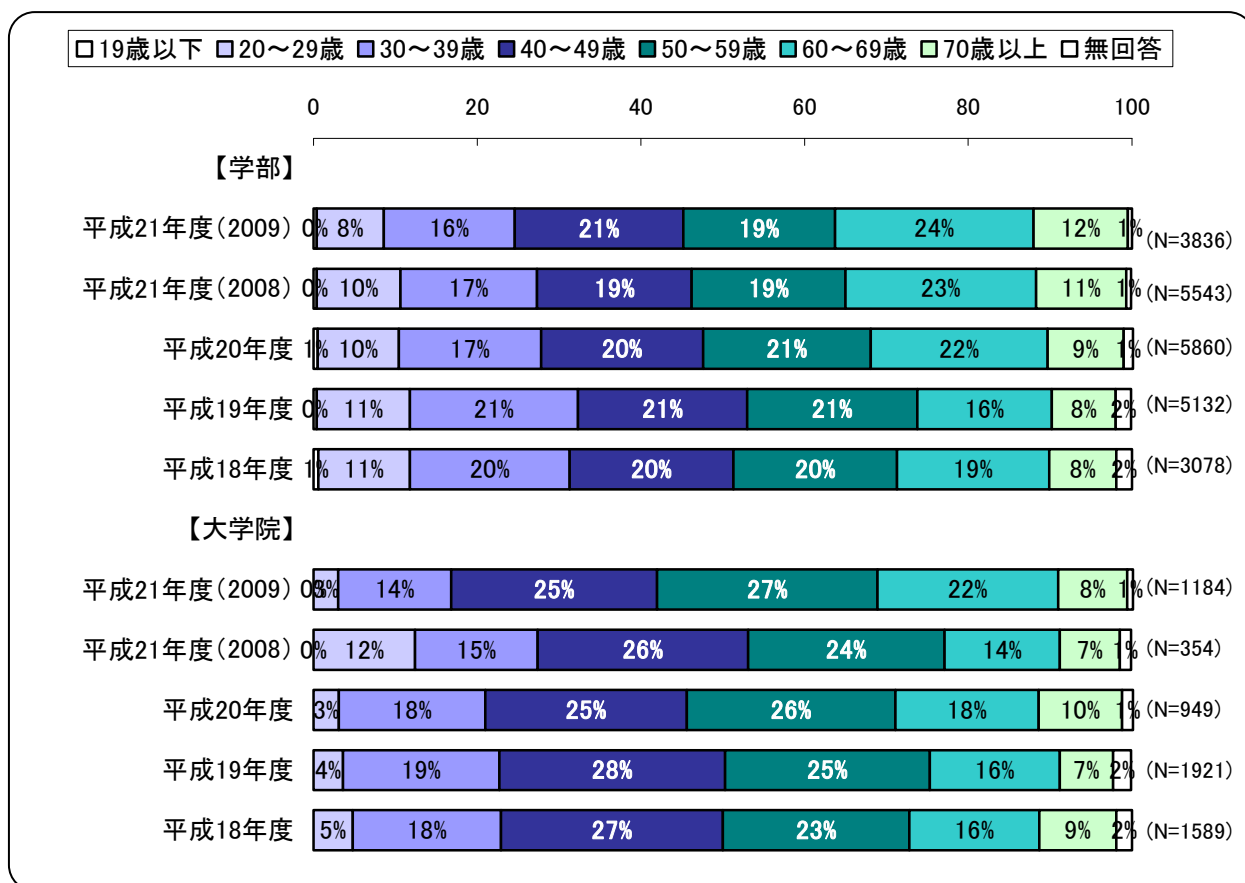
以下、今回の評価結果を分析する上で、回答者の特性からみて留意すべき点を明らかにするために、回答者の属性についてさらに見ていくことにする。

(2) 年齢階層別回答者（2008年新規開設科目）

年齢階層別に今年度（2008年新規開設科目）の回答者の分布を見ると（図1-1）、学部では30代～60代が中心であり、60歳代が最も多く23%、次いで40歳代と50歳代が19%、30歳代が17%を占める。昨年度と比べると、60歳以上の高齢者の割合が若干増加している。

大学院の今年度（2008年新規開設科目）は、対象科目数が少なく、特定の科目の影響を受けたためか、これまでとはやや異なった年齢構成になっている。40歳代と50歳代の割合が多いのはこれまでと同じだが、これまでの調査と比べると40歳未満の若い年代が増え、60歳以上の高齢者が少なくなっている。

図1-1 年齢階層別回答者

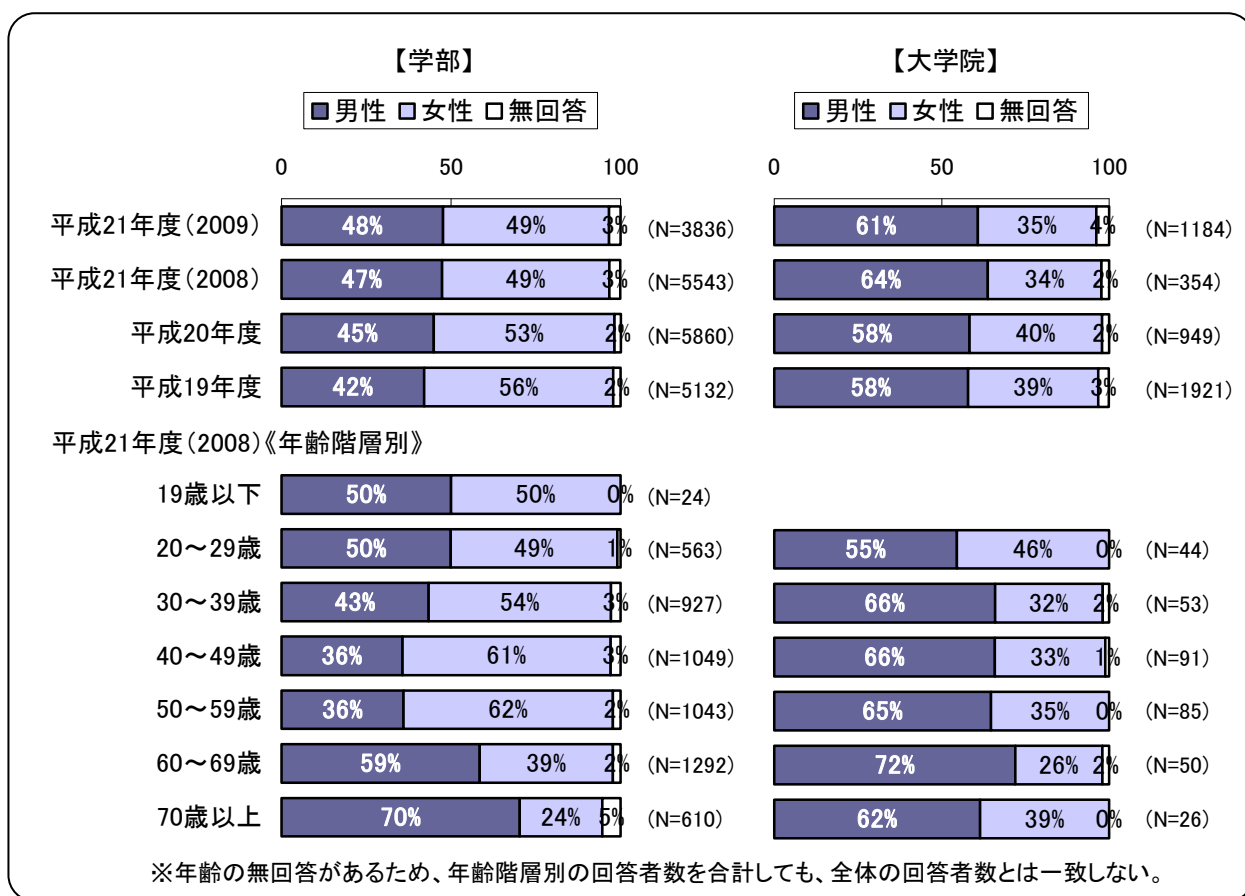


(3) 性別回答者（2008年新規開設科目）

回答者の性別（図1-2）は、学部では男性47%、女性49%となっており、昨年までの調査に比べると男性の割合がやや増えている。また30歳代～50歳代では女性が多く、60歳以上では逆に男性が多くなっているのが特徴である。

大学院は、男性64%、女性34%と男性の比率が高い。大学院も昨年までの調査と比べると男性の割合が増えている。大学院の場合は、年齢階層に関係なく男性の割合が多くなっている。

図1-2 性別回答者



(4) 職業別回答者（2008年新規開設科目）

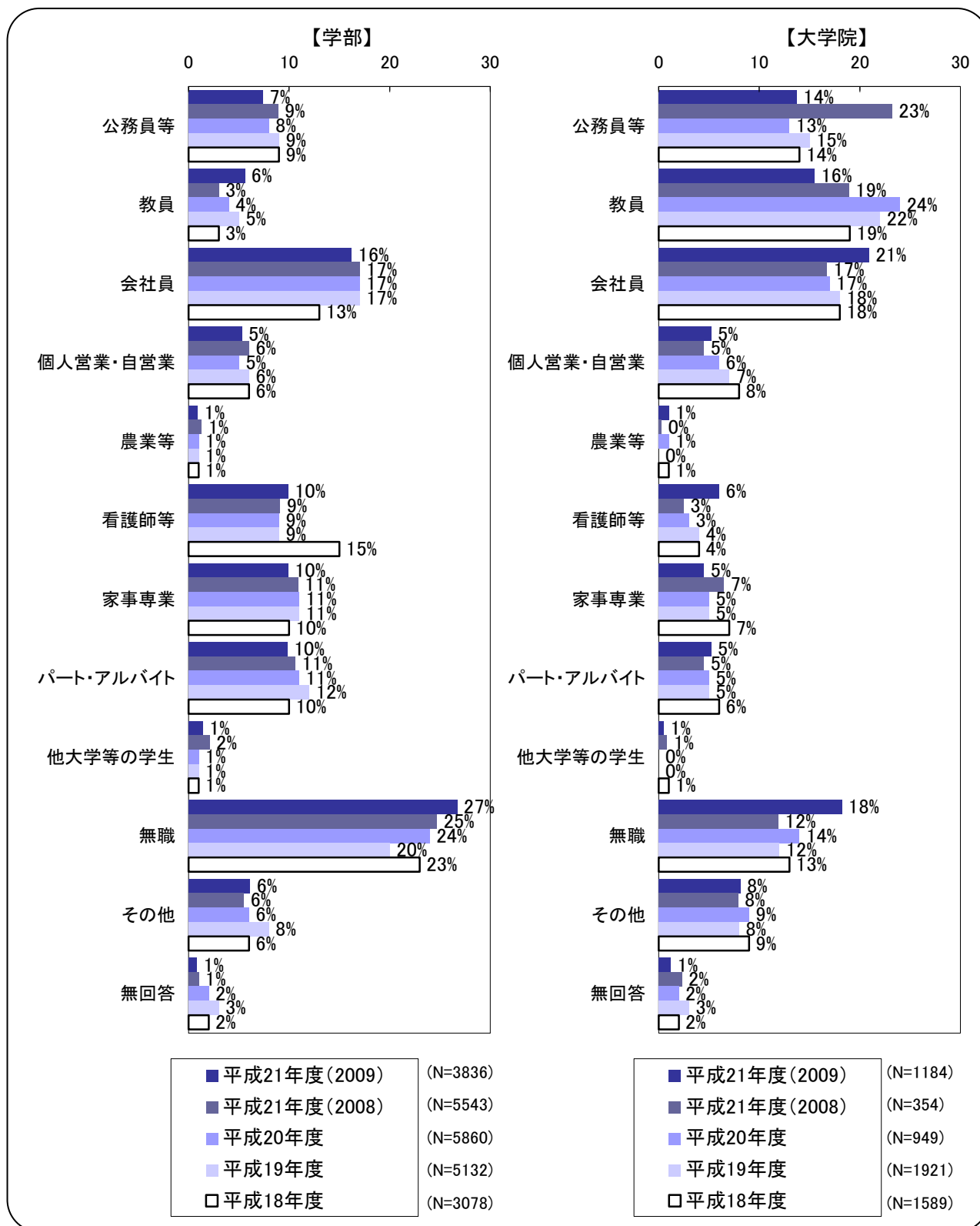
職業別に回答者の分布を見ると（図1-3）、学部では無職層が25%と最も多く、次いで会社員17%、家事専業11%、パート・アルバイト11%、公務員等9%、看護師等9%となっており、有職者（パート・アルバイト含む）は全体の6割程度を占めている。昨年までの調査とはあまり変化はない。

一方、大学院では、公務員等が23%と最も多く、次いで教員19%、会社員17%、無

職 12%と多くなっており、有職者は8割程度を占める。

なお、ここでの年齢別、性別、職業別の回答者の割合は、調査対象年度の科目による相違も影響しているため、放送大学の全学生の構成や時系列変化とは必ずしも同じではないことに注意されたい。

図 1 - 3 職業別回答者

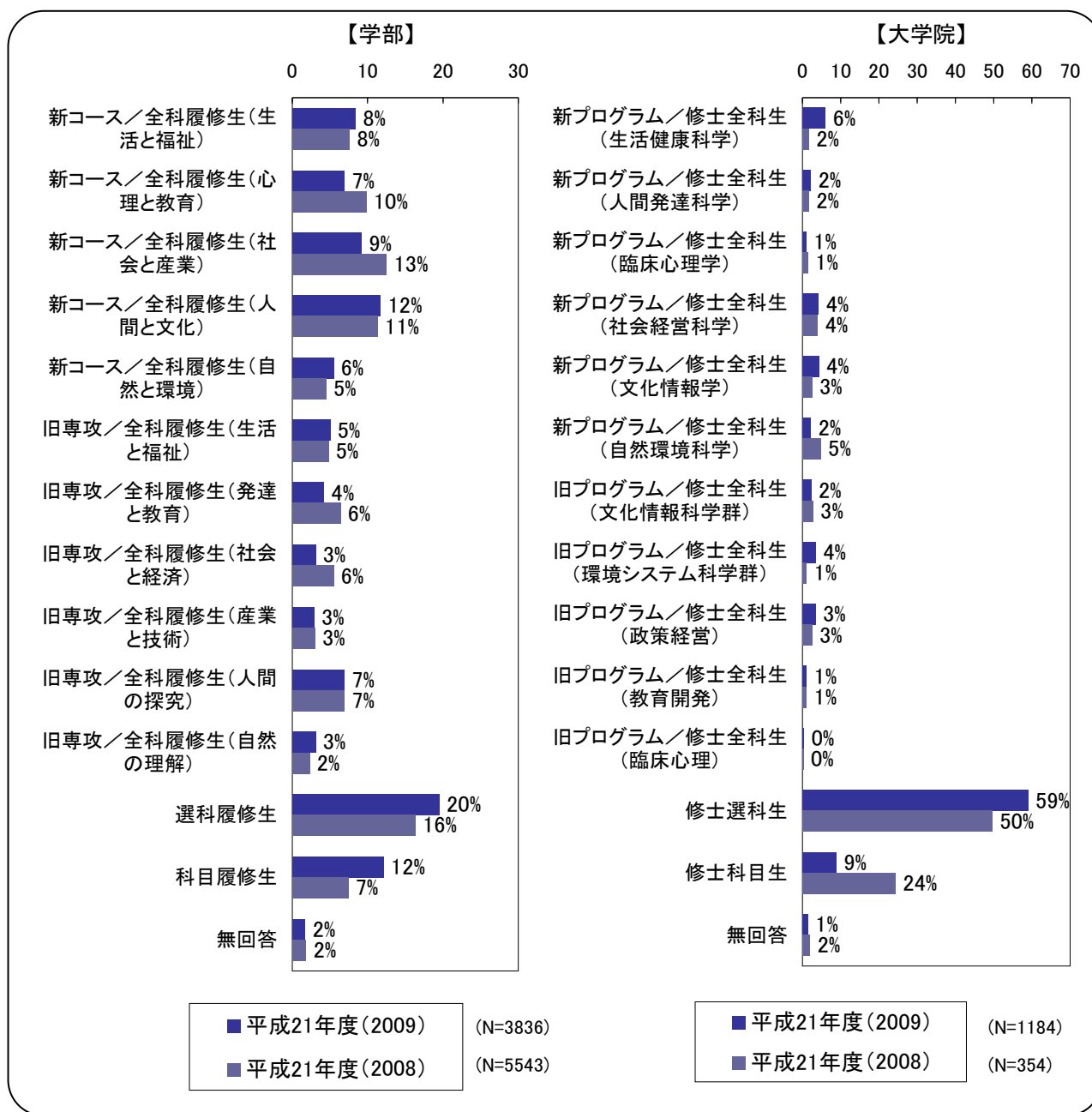


(5) 所属専攻（プログラム）別回答者（2008年新規開設科目）

次に学生の所属専攻（プログラム）別の分布を見ると（図1-4）、学部では全科履修生が75%を占め、そのうち新コース所属が46%、旧専攻所属が29%となっている。全科履修生の中では、新コース所属の「社会と産業」が13%、同「人間と文化」が11%、同「心理と教育」が10%とやや多くなっている。

大学院では修士選科生が50%を占めており、修士全科生と修士科目生がともに24%となっている。修士全科生の所属プログラムはかなりばらついている。

図1-4 学生の所属専攻（プログラム）別回答者



I-6. 評価結果の提供と公表

I-6-1. 評価結果の提供

本授業評価は、先にも掲げたように「個別授業科目の改善支援」「カリキュラム全体の改善支援」「認証評価に関わる資料提供」という三つの大きな目的のもとに企画され、実施された。そのことを勘案した授業評価小委員会（以下「小委員会」という。）での検討の結果、得られたデータは次のように資料提供されることとなった。

- (1) 当該科目を担当した主任講師への提供……担当科目の詳細な評価結果を主任講師に提供する。担当科目の評価結果には、担当科目と比較可能な全科目平均等及び自由記述部分が含まれる。
- (2) 専攻主任及びプログラム・コーディネーターへの提供……全ての専攻・プログラムに対して、その関係する資料一式を提供する。
- (3) 教授会及び教育課程編成委員会等関連委員会への提供……大学全体のカリキュラム編成に関しての検討や意志決定に際しての資料とするため、教授会及び各委員会に提供する。

実際に主任講師等へ提供した個別科目に関する資料の内容は、13頁～18頁の「提供資料サンプル」に示した通りである。

I-6-2. 評価結果の公表

さて、収集された授業評価の結果を授業改善の目的で用いるのはもちろんであるが、それに加えて、現在では大学の社会的責務として評価結果の公表が強く求められているところである。小委員会では、その問題に関しても詳細に検討した。その結果、以下のような合意に達し、それを基本的な方針とすることが決められた。

(1) 公表への基本姿勢

授業評価の結果については、基本的にできる限り広く社会に提示することが必要である。放送大学に課せられた社会的使命、教育体系全体における位置付け、そして納税者国民への説明責任等を勘案するならば、言うまでもなくそれが理の当然である。そこで、当面は以下に示す形態で公表していくこととする。

(2) 公表する内容

以下のデータに関して公表することとする。

- ① 調査の概要 : 授業評価の目的、方法、実施時期、調査対象者数、調査票等
- ② 回答者の概要 : 基本属性別に見た有効回答者数
- ③ 評点平均 : 全対象科目を総計した結果について、回答者の属性別、科目の分野別、メディア別等の各設問の評点平均値
- ④ 自由記述の概略 : 特徴的・代表的な記述

(3) 公表の方法

(2)の内容について、放送大学ホームページ及び広報誌「On Air」紙上等で適宜公表することを基本とする。

提供資料サンプル【学部】

学部 平成21年度学生による授業評価の調査結果【2008年度新規開設科目】(単純集計)

コース・プログラム等 ○○○○

科目名(コード): ○○○○ (TV)

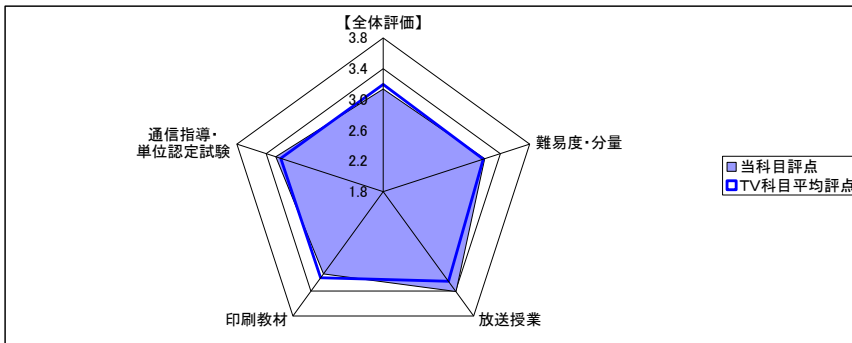
教員氏名: ○○○○

(注) 平均評点は、「あてはまる:4点」「ややあてはまる:3点」「あまりあてはまらない:2点」「あてはまらない:1点」として算出。

1. 取組み姿勢

	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、TV科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	TV科目平均評点	
取組み姿勢	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ	66	50%	33%	15%	2%	3.32	3.26	3.28	0.04
	A-2 放送授業を十分に視聴した	66	49%	30%	17%	5%	3.23	2.88	2.98	0.25
	A-3 印刷教材を熱心に学習した	66	47%	35%	17%	2%	3.27	3.32	3.30	-0.03

2. 授業評価



	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、TV科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	TV科目平均評点	
難易度・分量	B-1 放送授業の難易度は適切だった	66	38%	44%	17%	0%	3.22	3.15	3.16	0.06
	B-2 放送授業の内容は適切な分量であった	66	42%	38%	17%	0%	3.27	3.17	3.17	0.10
	B-3 印刷教材の難易度は適切だった	66	33%	46%	18%	2%	3.12	3.18	3.15	-0.03
	B-4 印刷教材の内容は適切な分量であった	66	35%	44%	18%	2%	3.14	3.22	3.19	-0.05
放送授業	B-5 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	66	39%	42%	14%	0%	3.27	3.17	3.19	0.08
	B-6 講師の熱意が十分に伝わった	66	61%	30%	5%	0%	3.59	3.29	3.33	0.26
	B-7 放送授業は教材としてよくできていると感じた	66	39%	44%	12%	0%	3.29	3.16	3.22	0.07
	B-8 テレビの特性が十分に生かされていると感じた	66	55%	30%	9%	0%	3.48	3.11	3.23	0.25
印刷教材	B-9 印刷教材と放送教材との内容的関連性は適切だった	66	38%	44%	12%	0%	3.27	3.27	3.27	0.00
	B-10 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	66	29%	47%	21%	2%	3.05	3.16	3.13	-0.08
	B-11 図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った	66	35%	38%	26%	2%	3.06	3.03	3.13	-0.07
	B-12 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	66	32%	46%	18%	2%	3.11	3.21	3.21	-0.10
通信指導・単位認定試験	B-13 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	66	41%	35%	14%	0%	3.31	3.25	3.24	0.07
	B-14 通信指導は学習内容の理解に役立った	66	46%	41%	6%	0%	3.43	3.29	3.27	0.16
	B-15 単位認定試験の問題は科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった	66	29%	38%	17%	3%	3.07	3.11	3.09	-0.02
全体評価	B-16 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	66	33%	47%	17%	2%	3.14	3.14	3.13	0.01
	B-17 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	66	41%	42%	11%	5%	3.22	3.23	3.24	-0.02
	B-18 新しい知識が身につく視野が広がった	66	50%	33%	11%	5%	3.31	3.38	3.39	-0.08
	B-19 この科目の内容を全体としてよく理解できた	66	27%	41%	26%	5%	2.92	3.05	3.04	-0.12
	B-20 この科目の内容には全体として満足している	66	32%	47%	15%	5%	3.08	3.17	3.17	-0.09

3. 回答者の属性 (単位:人)

学生種別	全科履修生(新コース所属)					全科履修生(旧専攻所属)					全科履修生【小計】	選科履修生	科目履修生	無回答	計											
	生活と福祉	心理と教育	社会と産業	人間と文化	自然と環境	生活と福祉	発達と教育	社会と経済	産業と技術	人間の探求						自然の理解										
	2	0	9	2	16	1	0	2	3	1	3	39	18	7	2	66										
性別	男性					女性					無回答		計													
	49					16					1		66													
年齢	19歳以下		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70歳以上		無回答		計									
	0		8		13		8		8		19		9		1		66									
職業	公務員等		教員		会社員		個人営業・自営業		農業等		看護師等		家事専業		パート・アルバイト		他大学等の学生		無職		その他		無回答		計	
	5		1		17		6		0		5		1		6		1		19		4		1		66	
通信指導・単位認定試験	単位認定試験 受験		通信指導 未受験		無回答		計		単位認定のための学習方法		ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ		ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ		放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ		無回答		計							
	51		7		5		3		66		2		11		51		2		66							

平成21年度学生による授業評価の調査結果【2008年度新規開設科目】（学生種別、通信指導提出状況・単位認定試験出席状況別クロス集計）【全体一覧】

学部	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ										A-2 放送授業を十分に視聴した										A-3 印刷教材を熱心に学習した									
	回答数		選択別の回答割合・回答数		肯定評価	肯定評価	回答数		選択別の回答割合・回答数		肯定評価	肯定評価	回答数		選択別の回答割合・回答数		肯定評価	肯定評価	回答数		選択別の回答割合・回答数		肯定評価	肯定評価						
	4	3	2	1	無回答	平均	4	3	2	1	無回答	平均	4	3	2	1	無回答	平均	4	3	2	1	無回答	平均						
合計(全体)	5543	44%	38%	12%	3%	2%	83%	3.26	5543	34%	30%	20%	13%	3%	64%	2.88	5543	47%	38%	11%	3%	2%	85%	3.32						
生活と福祉	421	39%	43%	14%	3%	2%	82%	3.19	421	30%	31%	21%	15%	3%	60%	2.77	421	45%	40%	10%	3%	2%	86%	3.31						
心理と教育	544	43%	41%	13%	2%	2%	83%	3.27	544	33%	31%	20%	13%	3%	64%	2.87	544	48%	39%	10%	2%	1%	87%	3.36						
社会と産業	692	44%	40%	11%	4%	0%	84%	3.24	692	33%	33%	20%	14%	1%	66%	2.85	692	45%	41%	11%	2%	1%	86%	3.30						
人間と文化	625	53%	35%	8%	2%	1%	89%	3.41	625	44%	31%	14%	9%	2%	74%	3.11	625	56%	33%	8%	2%	1%	89%	3.44						
自然と環境	250	46%	32%	16%	6%	1%	78%	3.19	250	37%	29%	22%	12%	1%	66%	2.92	250	43%	34%	16%	5%	1%	78%	3.17						
生活と福祉	264	37%	46%	14%	0%	3%	83%	3.23	264	27%	27%	25%	17%	5%	54%	2.67	264	44%	44%	8%	0%	4%	88%	3.38						
発達と教育	356	42%	39%	12%	4%	2%	81%	3.22	356	32%	26%	25%	14%	3%	58%	2.79	356	49%	37%	10%	2%	1%	87%	3.35						
社会と経済	306	45%	37%	12%	4%	2%	82%	3.26	306	36%	23%	24%	13%	5%	59%	2.86	306	47%	32%	14%	4%	3%	80%	3.26						
産業と技術	164	46%	37%	11%	4%	1%	84%	3.27	164	38%	31%	17%	12%	2%	69%	2.98	164	42%	40%	13%	2%	2%	82%	3.24						
人間の探究	380	45%	38%	12%	3%	3%	83%	3.28	380	36%	32%	15%	14%	3%	68%	2.92	380	49%	38%	9%	2%	1%	88%	3.36						
自然の理解	128	47%	38%	12%	2%	1%	85%	3.31	128	33%	34%	25%	7%	1%	67%	2.94	128	44%	39%	13%	4%	0%	83%	3.23						
全科履修生【小計】	4130	44%	39%	12%	3%	2%	84%	3.27	4130	35%	30%	20%	13%	3%	65%	2.89	4130	48%	38%	11%	2%	2%	86%	3.33						
選科履修生	902	46%	36%	12%	3%	3%	82%	3.28	902	35%	31%	19%	12%	4%	66%	2.92	902	48%	37%	11%	2%	2%	85%	3.33						
科目履修生	411	39%	38%	17%	4%	1%	77%	3.14	411	31%	28%	22%	17%	3%	59%	2.75	411	41%	42%	11%	4%	2%	83%	3.23						
単 位 試 験 認 定	4768	47%	39%	11%	2%	1%	86%	3.34	4768	37%	31%	19%	12%	2%	67%	2.94	4768	50%	39%	9%	1%	1%	89%	3.40						
未 受 験	385	26%	38%	25%	8%	4%	64%	2.85	385	21%	28%	29%	18%	4%	49%	2.54	385	27%	42%	21%	6%	3%	69%	2.93						
通 信 指 導 未 提 出	225	19%	21%	25%	29%	6%	40%	2.32	225	12%	23%	25%	31%	8%	36%	2.18	225	23%	21%	28%	23%	5%	44%	2.47						

(注) 1. 「選択別の回答割合」は、少数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合もある。
 2. 「肯定評価」は、調査票の選択肢「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計である。
 3. 評価については、選択肢「あてはまる:4点」「ややあてはまる:3点」「あてはまらない:2点」「あてはまらない:1点」として算出した。

Ⅱ. 次の点について、ご自由にお書きください。

(1) この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

社会全般に関心を持たなくてはいけないと思った。政治や経済など主婦には理解できない事も多いが、この教材を学ぶ事によって少し興味が湧いてきた。テレビのワイドショーでしか社会を知らなかった自分が恥ずかしいと思った。マキャベリ、マーシャル、アダム・スミスなど、もう少し調べてみたいと思う。

(2) この科目を受講して改善すべきだと感じた点をお書きください。

多少説明不足を感じた事は否めません。専門性を脚注などで補って頂けると更に良かったと思います。また最も分かりにくかったのは、何故そのように考えたかが、これまでの自分の経験に照らしても受け入れがたく、その真意が結論としてどうなのかが多少曖昧に感じられました。(但し個人差、自身の勉強不足にもよる)

(3) この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見やご感想があれば、どんなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

私は仕事をしながら勉強しているので、平日は休みが取れず、単位認定試験は土曜、日曜しか受けることができません。その為受けた科目があっても試験が平日にあるものは諦めざるを得ない状況です。試験会場を増やす等して土日に試験科目を増やすことはできませんか？

Ⅲ. この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。(該当する番号に○を付けてください。)

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。
3. 通信指導を提出しなかった。

Ⅳ. あなたご自身についてお答えください。(該当する番号にそれぞれ○を付けてください。)

(1) 学生種別	[全科履修生 新コース所属の方] 1. 生活と福祉 2. 心理と教育 3. 社会と産業 4. 人間と文化 5. 自然と環境 [全科履修生 旧専攻所属の方] 6. 生活と福祉 7. 発達と教育 8. 社会と経済 9. 産業と技術 10. 人間の探究 11. 自然の理解 [選科履修生・科目履修生] 12. 選科履修生 13. 科目履修生
(2) 性別	1. 男性 2. 女性
(3) 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
(4) 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業 5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト 9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ()

どうもありがとうございました。

提供資料サンプル【大学院】

大学院

平成21年度学生による授業評価の調査結果【2008年度新規開設科目】(単純集計)

コース・プログラム等 ○○○○

科目名(コード): ○○○○ (R)

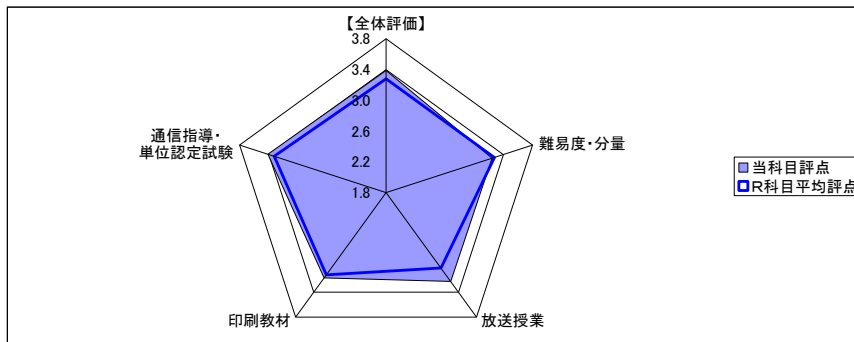
教員氏名: ○○○○

(注) 平均評点は、「あてはまる:4点」「ややあてはまる:3点」「あまりあてはまらない:2点」「あてはまらない:1点」として算出。

1. 取組み姿勢

	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、R科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	R科目平均評点	
取組み姿勢	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ	30	47%	40%	13%	0%	3.33	3.41	3.37	-0.04
	A-2 放送授業を十分に視聴した	30	43%	27%	20%	10%	3.03	2.90	2.73	0.30
	A-3 印刷教材を熱心に学習した	30	60%	27%	13%	0%	3.47	3.48	3.50	-0.03

2. 授業評価



	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、R科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	R科目平均評点	
難易度・分量	B-1 放送授業の難易度は適切だった	30	43%	40%	13%	3%	3.23	3.29	3.25	-0.02
	B-2 放送授業の内容は適切な分量であった	30	37%	43%	17%	3%	3.13	3.26	3.20	-0.07
	B-3 印刷教材の難易度は適切だった	30	50%	40%	10%	0%	3.40	3.32	3.33	0.07
	B-4 印刷教材の内容は適切な分量であった	30	40%	43%	17%	0%	3.23	3.33	3.34	-0.11
放送授業	B-5 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	30	50%	23%	17%	7%	3.21	3.18	3.03	0.18
	B-6 講師の熱意が十分に伝わった	30	60%	30%	3%	3%	3.52	3.22	3.07	0.45
	B-7 放送授業は教材としてよくできていると感じた	30	40%	27%	23%	3%	3.11	3.12	2.94	0.17
	B-8 テレビの特性が十分に生かされていると感じた	30	43%	23%	23%	7%	3.07	3.18	3.01	0.06
印刷教材	B-9 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	30	50%	40%	7%	3%	3.37	3.32	3.23	0.14
	B-10 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	30	40%	37%	23%	0%	3.17	3.22	3.17	0.00
	B-11 図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った	30	27%	33%	40%	0%	2.87	3.02	2.88	-0.01
	B-12 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	30	40%	47%	13%	0%	3.27	3.26	3.21	0.06
通信指導・単位認定試験	B-13 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	30	50%	37%	10%	0%	3.41	3.35	3.37	0.04
	B-14 通信指導は学習内容の理解に役立った	30	57%	27%	13%	0%	3.45	3.40	3.41	0.04
	B-15 単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった	30	33%	53%	0%	0%	3.38	3.23	3.21	0.17
	B-16 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	30	37%	57%	7%	0%	3.30	3.23	3.23	0.07
全体評価	B-17 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	30	53%	37%	7%	3%	3.40	3.32	3.24	0.16
	B-18 新しい知識が身につく視野が広がった	30	50%	47%	3%	0%	3.47	3.47	3.44	0.03
	B-19 この科目の内容を全体としてよく理解できた	30	47%	43%	10%	0%	3.37	3.23	3.22	0.15
	B-20 この科目の内容には全体として満足している	30	50%	40%	10%	0%	3.40	3.30	3.27	0.13

3. 回答者の属性 (単位:人)

学生種別	修士全科生(新プログラム所属)					修士全科生(旧プログラム所属)					修士全科生【小計】	修士選科生	修士科目生	無回答	計			
	生活健康科学	人間発達科学	臨床心理学	社会経営科学	文化情報科学	自然環境科学	文化情報科学群	環境システム科学群	政策経営	教育開発						臨床心理		
	1	0	0	5	1	0	1	0	0	0	8	21	1	0	30			
性別	男性	女性	無回答	計	年齢					19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	無回答	計
	24	5	1	30	0	3	4	10	4	8	1	0	30					
職業	公務員等	教員	会社員	個人営業・自営業	農業等	看護師等	家事専業	パート・アルバイト	他大学等の学生	無職	その他	無回答	計					
	5	2	14	3	0	0	2	0	0	1	2	1	30					
通信指導・単位認定試験	単位認定試験		通信指導	無回答	計	単位認定の方法		ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ	ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ	放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ	無回答	計						
	受験	未受験	3	1	0	30	1	7	21	1	30							

平成21年度学生による授業評価の調査結果【2008年度新規開設科目】（学生種別、通信指導提出状況・単位認定試験出席状況別クロス集計）【全体一覧】

大学院	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ												A-2 放送授業を十分に視聴した												A-3 印刷教材を熱心に学習した											
	選択肢別の回答割合・回答数				肯定評価	平均	選択肢別の回答割合・回答数				肯定評価	平均	選択肢別の回答割合・回答数				肯定評価	平均	選択肢別の回答割合・回答数				肯定評価	平均												
	4	3	2	1			無回答	4	3	2			1	無回答	4	3			2	1	無回答	4			3	2	1	無回答								
合計(全体)	354	51%	38%	8%	1%	2%	89%	3.41	354	39%	24%	22%	13%	2%	63%	2.90	354	56%	33%	9%	1%	90%	3.48													
生活健康学	6	67%	33%	0%	0%	0%	100%	3.67	6	50%	33%	17%	0%	0%	83%	3.33	6	33%	67%	0%	0%	100%	3.33													
人間発達学	6	50%	50%	0%	0%	0%	100%	3.50	6	67%	33%	0%	0%	0%	100%	3.67	6	50%	50%	0%	0%	100%	3.50													
臨床心理学	5	60%	40%	0%	0%	0%	100%	3.60	5	40%	20%	20%	20%	0%	60%	2.80	5	40%	60%	0%	0%	100%	3.40													
社会経営学	14	57%	43%	0%	0%	0%	100%	3.57	14	50%	14%	14%	21%	0%	64%	2.93	14	79%	14%	7%	0%	93%	3.71													
文化情報学	9	78%	22%	0%	0%	0%	100%	3.78	9	56%	33%	11%	0%	0%	89%	3.44	9	78%	22%	0%	0%	100%	3.78													
自然環境学	17	65%	35%	0%	0%	0%	100%	3.65	17	47%	24%	24%	0%	6%	71%	3.25	17	65%	29%	0%	0%	94%	3.69													
文化情報学	10	50%	40%	10%	0%	0%	90%	3.40	10	60%	20%	20%	0%	0%	80%	3.40	10	70%	10%	20%	0%	80%	3.50													
環境システム科学群	4	75%	0%	25%	0%	0%	75%	3.50	4	50%	0%	25%	25%	0%	50%	2.75	4	25%	25%	50%	0%	50%	2.75													
政策経営	9	67%	22%	11%	0%	0%	89%	3.56	9	56%	11%	33%	0%	0%	67%	3.22	9	67%	22%	11%	0%	89%	3.56													
教育開発	4	50%	50%	0%	0%	0%	100%	3.50	4	50%	50%	0%	0%	0%	100%	3.50	4	50%	50%	0%	0%	100%	3.50													
臨床心理	1	0%	100%	0%	0%	0%	100%	3.00	1	0%	100%	0%	0%	0%	100%	3.00	1	0%	100%	0%	0%	100%	3.00													
修士全科目【小計】	85	61%	35%	4%	0%	0%	97%	3.58	85	52%	24%	18%	6%	1%	75%	3.23	85	61%	31%	7%	0%	92%	3.55													
修士選科生	176	51%	35%	10%	1%	3%	86%	3.39	176	43%	28%	18%	9%	2%	71%	3.07	176	52%	35%	10%	1%	88%	3.42													
修士科目生	86	43%	45%	6%	4%	2%	88%	3.31	86	20%	17%	34%	26%	4%	37%	2.33	86	59%	33%	7%	0%	92%	3.53													
単位試験認定	314	55%	38%	5%	1%	2%	92%	3.48	314	41%	24%	20%	13%	2%	65%	2.94	314	60%	33%	6%	0%	93%	3.55													
通信指導未提出	26	27%	42%	27%	0%	4%	69%	3.00	26	23%	27%	39%	8%	4%	50%	2.68	26	31%	50%	19%	0%	81%	3.12													
認定	6	0%	50%	33%	0%	17%	50%	2.60	6	17%	0%	50%	17%	17%	17%	2.20	6	0%	0%	83%	0%	17%	2.00													

(注) 1. 「選択肢別の回答割合」は、少数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合もある。
 2. 「肯定評価」は、調査票の選択肢「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計である。
 3. 評価については、選択肢「あてはまる」.4点、「ややあてはまる」.3点、「あまりあてはまらない」.2点、「あてはまらない」.1点」として算出した。

II. 次の点について、ご自由にお書きください。

(1) この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

幅広い内容で、今まで自分にとって曖昧であった事柄や学んでいなかった事柄を、きちんと整理し理解することができました。有難うございました。

(2) この科目を受講して改善すべきだと感じた点をお書きください。

放送授業の内容がほとんど印刷教材の音読だったのは、残念だった。これでは放送授業を聴く意味がないので、印刷教材をより詳しく解説する内容にするなど、改善したほうがよいのではないかと。

(3) この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見やご感想があれば、どんなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

放送大学大学院は、一般の大学院のように専門性は高いが重箱の隅をつつくような視野の狭さがあるようなものにはなってほしくありません。さまざまな職業の人が受講しています。その意味、多角的な、多元的なものの見方を養えるような…また、いまの社会で問題となっている、現場の生の素材、事実を授業にとりあげ、分析していく。そういう視点で授業を構成してほしいです。インターネットによる教育方法をもっと取り入れて、同じ科目を受講している学生どうしが議論できる、そういう場をつくっていただければ、よりダイナミックな教育ができるのではないかと思います。

III. この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。(該当する番号に○を付けてください。)

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。
3. 通信指導を提出しなかった。

IV. あなたご自身についてお答えください。(該当する番号にそれぞれ○を付けてください。)

(1) 学生種別	〔修士全科生 新プログラム所属の方〕 1. 生活健康科学 2. 人間発達科学 3. 臨床心理学 4. 社会経営科学 5. 文化情報学 6. 自然環境科学 〔修士全科生 旧プログラム所属の方〕 7. 文化情報科学群 8. 環境システム科学群 9. 政策経営 10. 教育開発 11. 臨床心理 〔修士選科生・修士科目生〕 12. 修士選科生 13. 修士科目生
(2) 性別	1. 男性 2. 女性
(3) 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
(4) 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業 5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト 9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ()

どうもありがとうございました。